

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人
第5学年	国語	34人	算数	34人	理科	34人

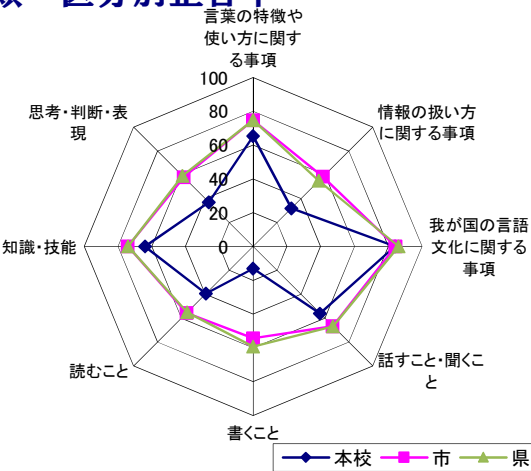
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.3	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	32.0	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	84.0	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	56.0	66.7	66.9
	書くこと	13.0	54.3	59.3
	読むこと	39.5	55.6	55.2
観点	知識・技能	64.0	74.1	74.0
	思考・判断・表現	37.0	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

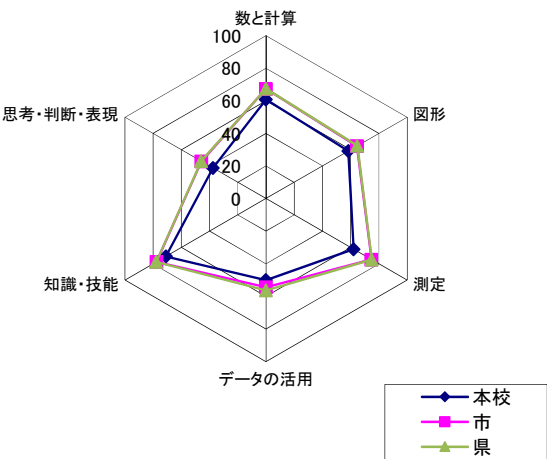
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均よりも9.4ポイント下回っている。 ○漢字の書きで「鼻」は、市の平均よりも5.6ポイント高い。 ●その他の漢字の書き、読み、ローマ字に関しては課題が見られる。 ●主語、述語の関係や指示する語句の役割の理解について課題が見られる。	・漢字や文章を読み書きする機会を意図的に多く設け、語彙や主語述語の関係についての理解の定着を図っていく。 ・ローマ字の読み書きについては、タイピング練習を行う中で、拗音や促音、ローマ字特有の記述などについて触れながら、読み方や書き方の定着を図りたい。
情報の扱い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均より26.4ポイント低い。 ●国語辞典の使い方の設問では、文章に合うような言葉の意味を選択することに課題が見られる。	・国語辞典については、使用する機会を増やし、使い方に慣れるとともに、語彙力を高めることで、文章に合うような言葉の意味を選択できるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市の平均より0.3ポイント低い。 ○漢字のへんやつくりについての設問は、正答も多く見られる。	・漢字練習の際には、部首を意識しながら指導して定着を図りたい。 ・部首クイズなどを行いながら、漢字について日常的に触れられるようにすることで、興味を持たせたり、理解力を高めたりしていく。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均よりも10.7ポイント低い。 ○話し合いの内容を聞き取り、話し手が伝えたいことの中心を捉えることは、3ポイント、司会者の話し方の工夫を捉えることについては1.3ポイント、それぞれ市の平均を上回っている。 ●相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら記述する設問は、市の平均を30.3ポイント下回っていて、課題が見られる。	・話し手が伝えたいことの中心を捉えることはできているので、グループ活動や話し合い活動を多く行う中で、より話を聞く力が高まるようにしていく。 ・ペアでの対話や一分間スピーチなどの機会を多く設け、表現力の向上を図っていく。 ・意見の共通点や相違点に着目して課題を解決するような学習活動を通して、自分の考えをまとめる力を高めていく。 ・普段の生活の中でも話す、聞く機会を意図的に設け、自分の考えをまとめられるようにする。
書くこと	●平均正答率は、市の平均より41.3ポイントも低く、無解答が76%もあり、課題が大きい。 ●指定された長さや段落構成を理解し、自分の考えを明確にして文章を書くことに課題が見られる。	・書くことへの抵抗をなくすように、授業の振り返りや一言日記などで自分の考えや理由を書く機会を増やし、文章を書く習慣をつけていく。 ・授業や宿題において、指定された長さでテーマに合った文章を書く課題を積極的に取り入れて文章を書く力が身に付くようにする。
読むこと	●平均正答率は、市の平均を16.1ポイント下回っている。 ●物語を読んで、登場人物の気持ちを捉えることは概ねできているものの、登場人物の行動の理由を考えることや、文書を読んで感じたことや考えたことを共有することに課題が見られる。 ●説明文の内容を捉え、文章を前半と後半に分ける設問の正答率は4%で、無解答も52%と多かった。	・物語や説明文の学習を行う際に、文章を場面や意味のまとまりに分けるような学習活動に時間をかけることで、構造的に文章を読む力を高めていく。 ・場面の様子や気持ちを考える際に、その理由など行間を読むような問い掛けを行いながら、読解力を高めていきたい。 ・時間配分を考えながら問題を解く練習を繰り返し行い、ヒントを与える等して、無解答にならないよう指導する。

宇都宮市立城山中小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.8	67.3	67.4
	図形	58.4	64.5	64.7
	測定	62.0	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	71.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	37.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

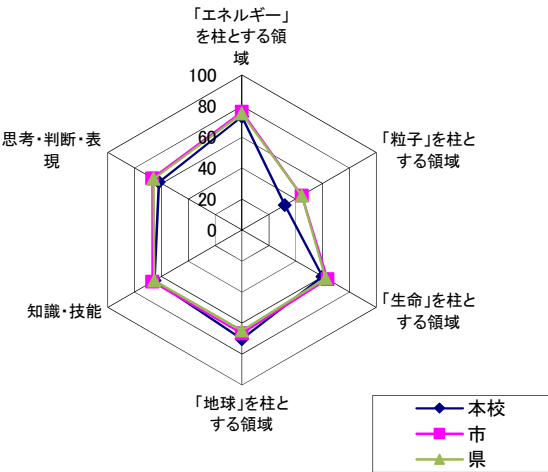
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●正答率は、市の平均より6.5ポイント低い。 ○小数のしくみや表し方はよく理解できている。 ●分数の大きさの理解では、市の平均正答率より14.1ポイント低い。 ●□を使って解く文章問題では、立式することが市の平均よりも20ポイント低い。 ●2けた÷1けた＝1けた(余りなし)では、市の平均正答率より7.3ポイント低い。 ●除法の余りについて考えて説明を書く問題では、市の平均正答率よりも28.1ポイント低い。	・分数については、数の表し方や大きさなどについて、具体物を用いながら理解できるようにする。 ・除法については、計算のしくみや方法について、言葉で説明したり、余りが何を表しているのか具体的に考えられたりできるよう個別指導していく。 ・文章題では、問題の意味を理解できるようよく読むことや図に表したりして、常に立式を意識した指導を継続する。 ・朝の学習や宿題などで繰り返し加減乗除の計算問題を行い、確実な定着を図る。
図形	●正答率は、市の平均より6.1ポイント低い。 ○二等辺三角形の作図の正答率は、80.0%であった。 ●球の半径を求める問題では、選択式の問題だが、市の平均正答率より11.4ポイント低い。 ●円の中心とコンパスの使い方について正しいものを選ぶ問題では、市の平均正答率より11ポイント低い。	・円と球の半径と直径について、模型やICTを用いて確認できるようにしたり、図に表す機会を設けたりして、知識・技能の定着を図る。 ・コンパスを使った作図の機会を設け、円を活用して作る図形について復習する。
測定	●正答率は、市の平均正答率より12.7ポイント低い。 ●時間が経過する前の時刻を求める問題では、市の平均正答率より17.1ポイント低い。 ●はかりの目盛りを読み取る問題では、市の平均正答率より22.1ポイント低い。	・道のりや重さについて、引き続き復習し、知識・技能の定着を図る。 ・時刻については、図や数直線で表すことで時間の経過が分かりやすくなることに気付かせ、解決の手掛かりになることを助言し、復習する。 ・重さなどの目盛りを読むときには、1目盛りが表す値が重要であることを体験を通して再度確認し、類似問題を通して定着を図る。
データの活用	●正答率は、市の平均正答率より4.4ポイント低い。 ○棒グラフの読み取りの問題では、正答率が88.0%であった。 ●1目盛りの数が違うグラフを読み取る問題では、市の平均正答率より7.7ポイント低い。	・社会や理科など他の教科で棒グラフなどのデータを読む機会を捉え、1目盛りの数の値に注目することが大切なことに気付かせ、正しく値を読み取ろうとする意識をもたせる。

宇都宮市立城山中央 小学校第4 学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.1	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	32.0	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	60.0	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	70.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.2	66.8	65.4
	思考・判断・表現	61.9	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は、市の平均正答率より3.1ポイント低い。 ○「じしゃくのせいしつ」では、実験の結果から、磁石に引きつけられる空き缶の材質を推測する設問の平均正答率は、96%で、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ●「音のせいしつ」では、大きい音は、ふるえ方が大きいことを理解する設問では、市の平均正答率を16.3ポイント下回っている。	・身の回りにある物を比較し、磁石につく物とつかない物の違いを考えられるよう、条件を設定したアンブラグドプログラミングによる授業を意図的に設ける。 ・楽器など音を出したときの経験を振り返らせるなど、学習と生活を結び付けた学びができるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は、市の平均正答率より12.5ポイント低い。 ●「ものの重さ」では、無解答が多く、形を変えても重さは変わらないという基本的な内容を理解できていないという課題が見られた。	・プリントやAIDリルで復習を行い、知識の定着を図る。そして、今後も授業の中に実験など体験的な活動を積極的に取り入れ、学習内容の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は、市の平均正答率より3.6ポイント低い。 ○「植物の育ち方」では、草丈の測り方についての設問で、市の平均正答率を14ポイント上回っている。 ●「こん虫の育ち方」では、トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違いについての設問で、市の平均正答率を19.1ポイント下回っている。	・身近な自然の観察は、実際に校庭やまごころ広場に行って生き物を見ることによって観察の仕方が身に付いてきているので、引き続き指導していく。 ・図鑑やICTを活用して、昆虫の育ち方について調べる学習を取り入れ、育ち方の違いについて理解できるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、市の平均正答率より3.8ポイント高い。 ○温度計の使い方についての設問では、平均正答率は96%で、市の平均正答率を20.9ポイント上回っており、正しい測り方が身に付いていると考えられる。 ●「かげと太陽の動き」では、太陽の位置の変化を方位で理解する設問で、市の平均正答率を9.7ポイント下回っている。	・実験器具の使い方では、器具の名称だけでなく、ICTなどを活用して丁寧に指導し、全員が正しく使用できるようにしていく。 ・社会科との関連を図り、方位や方位磁針の使い方を思い起こさせ、影と太陽の位置を正しく捉えられるよう指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自分自身のことについては、「自分には、よいところがあると思う」は、88%が肯定的回答で、市を6ポイント上回った。「将来のゆめや目標をもっている」でも92%の児童が肯定的回答をしている。今後も一人一人のよさに目を向け、児童の成長を見守りたい。

○家での生活については、「毎日、朝食をたべている」「毎日、同じくらいの時こくにねている」は、いずれも90%の児童が肯定的回答をしている。また、「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」では、8時間以上が84%と市を6.3ポイント上回った。規則正しく、健康的な生活が送れていることがうかがえる。今後も家庭と連携して、家庭での時間の使い方やよりよい過ごし方について継続していくようにしたい。

○学校での様子では、「毎日の生活がじゅう実していると感じている」の肯定的回答が96%で、市を9ポイント上回っている。また「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」は、80%の児童が肯定的回答をしており、積極的に学習に取り組もうとする態度はうかがえるので授業中の話し合い活動などを取り入れ、学習に興味を湧くような支援をしていきたい。

●半面、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」は肯定的回答が68%で、市を18.1ポイント下回っている。「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」も肯定的回答が68%で、市を15.2ポイント下回っている。各教科の授業において、目標とまとめは日頃からノートに書いているが、それを認識せずにいる児童がいるということが分かった。授業の際にはノートに目標とまとめをかくと同時に毎回口頭でも繰り返し確認するなどして、児童に意識づけを図り、本時の学びを実感できるようにしていく。

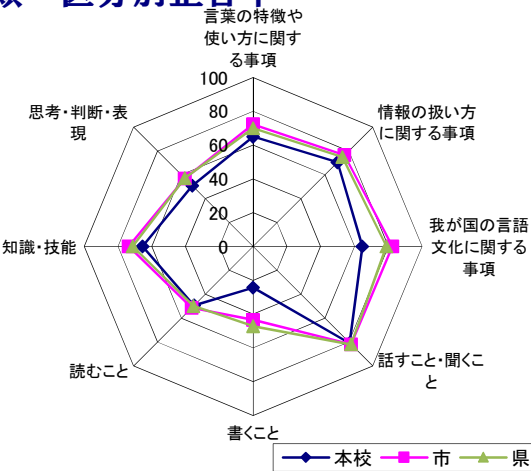
●「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」では、肯定的回答が64%で、市を17.2ポイント下回っている。ただ言われた通りに学習に取り組むのではなく、学ぶ中で興味をもって学習に取り組めるよう、場の設定や発問の工夫をして関心を持たせていきたい。

●「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」では、32%の児童が多いと感じており、市と14.4ポイントの差がある。学習意欲の低い児童と学習意欲があっても自力解決に時間のかかる児童がいるためにこのような結果が出ていると考えられる。学力の定着を目指した宿題の量が必要であることを伝えながら、実態に合った量を調整し、児童のやる気を引き出せるような宿題の内容になるよう工夫していきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.0	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	70.6	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	64.7	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	80.9	81.9	82.0
	書くこと	24.3	43.5	47.2
	読むこと	49.3	51.4	49.8
観点	知識・技能	65.5	73.6	71.3
	思考・判断・表現	50.9	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

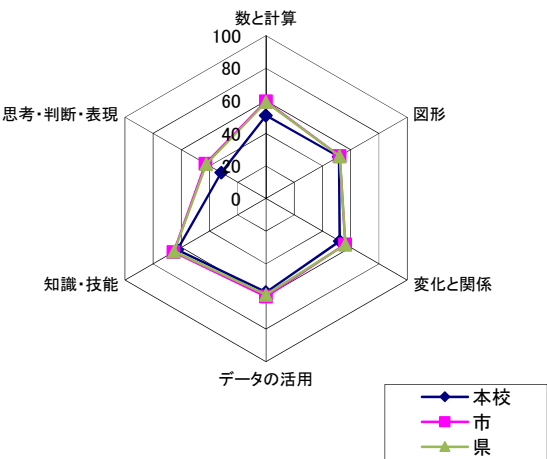
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均よりも7.3ポイント下回った。 ○漢字の読み取りについては、全ての設問で市の平均を上回った。 ●漢字の書き取りについては、全ての設問で市の平均を下回った。また、無解答率が市の平均を上回っていた。 ●文中における修飾、被修飾の関係を捉える設問では、設問によって正答率のばらつきがあった。	・漢字の学習については、漢字スキルや宮つ子ステップアップシートを活用して基本的な知識の定着を図る。また、児童が進んで漢字を書くことができるような学習活動を取り入れていくことで、意欲を高めていく。 ・修飾・被修飾の関係等については、文章読解や作文の学習活動において適宜指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	●漢字辞典の使い方の設問であったが、平均正答率は、市の平均より5.8ポイント下回った。 ●無解答率が、市の平均を0.5ポイント上回った。	・漢字辞典については、漢字練習の場面で使用する機会を増やし、使い方に慣らしていく。 ・部首や総画数、用法などにも注目させながら指導することで、漢字への関心を高めていく。
我が国の言語文化にに関する事項	●ことわざの設問であったが、平均正答率は、市の平均より17.7ポイント下回った。 ●無解答率が、市の平均を5.1ポイント上回った。	・ことわざや故事成語のクイズ遊びなど、我が国の言語文化に楽しんで親しむ時間を設け、知識の定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均を1ポイント下回った。 ○話し手の工夫を見つける設問では、平均正答率を11.2ポイント上回った。 ○記述式の解答をする設問では、無解答率が市の平均を下回った。 ●2つの意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を書く設問では、市の平均を8.9ポイント下回った。	・今後もペアや小グループでの対話を充実させつつ、司会者を立てたグループや学級全体での話合いの機会を増やしていく。 ・国語や学級活動の話合いで、話し手の意見に着目しながら自分の意見を述べたり質問をしたりするなど、能動的に聞く態度を指導していく。
書くこと	●平均正答率は、市の平均を19.2ポイント下回った。 ●無解答率は、市の平均を22.7ポイント上回った。 ●指定された条件に合わせて文章を書くことに課題が見られる。 ●質問紙においてテストを解く時間が足りなかったと回答する児童が64.8%いたことから、文章を書くために時間がかかりすぎてしまったことが考えられる。	・文字数や時間を指定し、テーマや条件に合った文章を書く課題を積極的に取り入れ、文章を書く力が身に付くようにする。 ・書くことへの抵抗感を減らすために、文章の書き方についての型を提示し、文章を書く習慣をつけていく。 ・時間配分を考えながら問題を解く練習を繰り返し行い、無解答にならないよう指導する。
読むこと	●平均正答率は、市の平均を2.1ポイント下回っている。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有できるかどうかをみる設問では、平均正答率が、市の平均を6.8ポイント上回っていた。主体的かつ対話的な学習活動を学校全体で推し進めてきた成果であると考えられる。 ○文章の中心となる語や文を見付けて要約することができるかをみる設問では、平均正答率が、市の平均を6.4ポイント上回っていた。 ●短答式で解答する2つの設問において、いずれも無解答率は市の平均を上回っていた。	・引き続き、単元の最後に自分の感想を伝え合う場面を設ける等、主体的かつ対話的な学習活動を推し進めていく。 ・説明文の学習を行う際に、文章を意味段落に分け、それぞれがどのように関係しているのか、構造的に読むような場面を丁寧に指導していく。 ・物語文において、場面の様子や気持ちを考える際に、その理由を叙述を元に読み深めるような問い返しを行い、読解力を高めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.0	59.7	59.2
	図形	51.5	52.1	52.1
	変化と関係	52.2	56.1	56.3
	データの活用	57.4	60.1	58.9
観点	知識・技能	62.9	65.5	65.1
	思考・判断・表現	31.8	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

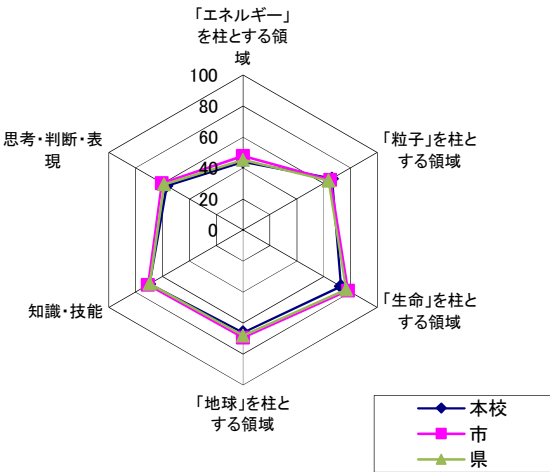
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○金額を切り上げて百の位の概数にして計算する問題は、市の平均より2.7ポイント高い。 ●平均正答率は、市平均と比べて8.7ポイント低い。 ●計算のきまりを答える設問では、市平均より17ポイント低い。	・小数については、基礎的な問題を解くことを通して、何が何の何倍(何個分)なのかを理解できるようにする。 ・分数については、「帯分数」や「仮分数」などの言葉の意味を理解させて問題に取り組みさせる。 ・文章題では、問題をよく読み自分の考えを書くことを常に意識して指導を継続する。 ・朝の学習や宿題などで繰り返し加減乗除の計算問題を行い、確実な定着を図る。
図形	○平均正答率は、市平均と比べて0.6ポイント高い。 ○コンパスとものさしを使ってひし形を描く問題は、市平均より22.8ポイント高い。 ●180度より大きい角度を求める問題や単位の変換をして面積を求める問題では、市平均よりも正答率が低い。	・角の大きさの問題について、三角定規や分度器などを用いて確認したり、図に表したりして、知識・技能の定着を図る。 ・面積の単位の間隔を説明する問題について、図を見たり描いたりするなどしてイメージを持って問題に取り組めるようにする。
変化と関係	○表を見て伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題では、市平均より9.7ポイント高い。 ●平均正答率は、市平均と比べて3.9ポイント低い。 ●表を見て、伴って変わる2つの数量の関係について分かることを説明する問題は、市平均より13.9ポイント低い。	・数量の関係の問題については、何倍の求め方を復習し、図に表すことで数値の大小が分かりやすいことに気付かせ、数量の関係の理解を図る。 ・表を読み取る問題では、縦の関係と横の関係に着目させ、どのようなきまりがあるかを確認し、類似問題を通して定着を図る。
データの活用	●平均正答率は、市平均と比べて2.7ポイント低い。 ●2つの折れ線グラフの数値を読み取り、値の差を読み取る問題は、市平均より5.7ポイント低い。 ●二次元表を見て、条件に当てはまる人数を答える問題の正答率は市平均よりもやや低い。また無解答率が高く、二次元表の読み取り方を理解していないという課題が見られた。	・折れ線グラフを読み取る問題では、類似問題を通してどこに何の値があるのか聞かれている数値は何なのかなど、グラフを正しく読み取る力の定着を図る。 ・二次元表を読み取る問題では、与えられた数を表に書き込み、計算することによって他の値が求められることに気付かせ、二次元表の数値の関係を理解できるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	44.1	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	66.3	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	72.9	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	66.2	69.5	68.1
観点	知識・技能	69.7	70.8	69.5
	思考・判断・表現	57.0	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて3.7ポイント低い。 ○簡易検流計の針のふれ方からわかることを考える問題は、市の平均より2.4ポイント高い。 ●並列つなぎの名称を答える設問では、市平均より10.8ポイント低い。	・自然科学の知識を身に付けて実感を持った理解が得られるように、実験前に既習事項をもとに予想をさせたり、見通しを持たせたりする活動の工夫や、実験の改善を図っていく。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、市平均と比べて1.4ポイント高い。 ○ボールに空気を入れるとはずむ理由を説明できるかどうかをみる問題は、市平均より10.8ポイント高い。 ●実験の準備の理解や結果と身の回りの現象を結びつけて考える問題は、どちらも市の平均より低い。	・学習内容に関わる生活経験を振り返らせたり、既習事項から予想させたりすることで、自己の身近な生活の中での経験が実感を持った知識の習得につながるよう促していく。 ・実験の際は、実験の目的や計画を立てる場を設け、実験の準備について理解を深め、適切にできるようにする。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて5.3ポイント低い。 ○関節の名称を答える問題は、市平均より10.8ポイント高い。 ●季節によって気温や動物のようすが違うことを理解しているかの問題は、市平均より16.2ポイント低い。	・今後も自己の身近な生活の中で季節による気温の変化などの実感を伴って理解できるようにする。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。 ・観察を通して、季節による動物の様子の変化を理解できるようにする。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて3.3ポイント低い。 ○土の粒の大きさと水たまりのできやすさの関係を理解しているかの問題は、市平均より5.3ポイント高い。 ●土の粒の大きさと水のしみこみややすさの関係という基本的な内容を理解できていないことに課題がみられた。 ●調べて分かったことに当てはまる言葉を選ぶ問題は、市平均より22ポイント低い。	・実験後の結果と考察だけでなく、まとめ、振り返り、次時の導入場面などで土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いを確認をしていき、知識の定着を図る。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

- ★傾向と今後の指導上の工夫
- 良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
- 家庭での学習に関する質問項目では、市の平均を下回っているものが多い。宿題を家で取り組んでいる児童の割合は県の平均と同程度であるが、授業の予習や復習などを行っている児童の割合は少ない。
 - 学習時間については、平日1時間未満の児童が61.8%と、市の平均48.6%よりも13.2ポイント上回った。また、土日の学習時間は、1時間未満の児童が73.5%と市の平均48.4%よりも25.1ポイント高く、全くしない児童も29.4%いる。平日、土日ともに、学習する習慣が定着している児童が少ないことが今後の課題である。
 - 1カ月に読む本の冊数については、5冊以上読んでいる児童の割合が64.7%と市の平均を大きく上回っている。
 - 「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的割合は100%、「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感じることがある」のを肯定的割合も91.1%と市の平均を大きく上回っており、学習に対して興味を持って取り組んでいることがうかがえる。
 - 「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合が70.6%と、県の平均を3.1ポイント上回っており、クロームブックなどを使いながら調べることが定着している。
 - 「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的割合は、市の平均を下回っており、どんな問題であっても最後まで、あきらめずに取り組むことができるようにさせていくことが課題である。
 - 「グループの話し合いに自分から進んで参加している」、「友達の前で自分の考えを発表することが得意である」の肯定的割合も市の平均を上回っており、話し合い活動、発表することについて、意欲的であることがうかがえる。
 - 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」と考えている児童が67.7%で、市の平均よりも4.8ポイント低かった。授業の中で、自分の思いや考えを書く活動を増やしていく必要がある。
 - 「自分は勉強がよくできる方だと思う」と回答した児童は70.6%と、市の平均の57.7%を大きく上回っている。しかし実際の各教科の結果とのずれが見られる。
 - テストの問題を解く時間については、時間が足りなかったと回答した割合が、国語は64.8%、算数は55.9%と半分以上であり、テストの時間配分について考えながら取り組ませる必要がある。

宇都宮市立城山中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成	・「居がよい、やりがよい、学び合いを目指した算数指導」の校内研修の充実 ・一人一授業等による「分かる授業」の研究実践 ・「城山小スタンダード」に基づいた授業の展開の研究 ・望ましい学級集団作りと学級活動の充実 ・児童の実態把握と達成感の達成への支援	・「宿題をきちんとやっている」「決まりを守っている」「毎日の生活が充実している。」の平均肯定割合は約9割であった。 ・「授業でめあて・ねらいが提示されている。」「ノートにまとめている。」の平均肯定割合が約8割、「まとめ・振り返りを行っている」は約6割であった。「勉強ができる。」は昨年度より1割増え約6割であった。 ・「クラスは、発言しやすい雰囲気」の平均肯定割合が約9割、「話し合いに進んで参加している。」では、平均肯定割合が約8割であった。 ・「勉強して、おもしろい、楽しい」は約9割であった。
・基礎的基本的な学力の獲得	・AIDリルや朝の学習時間の充実による基礎・基本の学力の定着 ・算数について4年生以上の学年で習熟度別学習の実施 ・パソコンや辞書などの活用の充実 ・「書くこと」を意識した授業の展開の工夫 ・漢字・計算検定の実施 ・家庭学習の習慣化 ・「家庭学習強化週間」の年2回の実施 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携	・国語と算数はすべての領域で市の平均正答率より低かった。 ・国語では、「漢字の読み」「物語の登場人物の心情等の読み取り」の正答率は比較的高く、基本的な知識・技能が身に付きつつあることがうかがえる。 ・算数では、「知識・技能」については、昨年度より正答率が上がった。 ・理科は「知識・技能」の習得は市とほぼ同じであったが、「思考・判断・表現」は不十分であった。 ・どの教科も、記述する解答形式での正答率が低く、無解答も多い。 ・家庭での学習時間については、4年児童が「30～1時間以上（平日）」84%、5年児童が「1時間以上（平日）」38.2%学習しており、学習習慣が身に付きつつあるが、「全くしない。30分以下（平日）」が各学年約1割いる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎・基本の学力が十分ではない。	・今年度行っていることに加えて、前学年の復習を取り入れた朝の学習や宿題の充実を図る。	・児童の実態により、宿題においても、前の学年の復習を取り入れるなど工夫をする。